

論文の内容の要旨

氏名：諏 佐 典 生

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：高血圧症患者におけるカンデサルタンシレキセチル/アムロジピン配合薬とオルメサルタンメドキシミル/アゼルニジピン配合薬の検査値に及ぼす効果の比較：後ろ向きコホート研究

本研究の目的はカンデサルタン/アムロジピン（CAN/AML）配合薬とオルメサルタン/アゼルニジピン（OLM/AZ）配合錠が高血圧症患者の血液検査値に及ぼす効果を比較検討することである。我々は日本大学医学部臨床データベースを用いて、CAN/AML 配合薬（8/5 mg/日）または OLM/AZ 配合錠（20/16 mg/日）を実際の臨床で投与された高血圧症患者の臨床情報を後ろ向きに調査し、傾向スコアを用いて患者背景をマッチングした CAN/AML 群（182 人）と OLM/AZ 群（182 人）を抽出した。さらに我々は、各群の投与開始前 3 ヶ月と投与開始後から 12 ヶ月までの血清クレアチニン、estimated glomerular filtration rate（eGFR）、blood urea nitrogen（BUN）、尿酸、Na、K、aspartate aminotransferase（AST）、alanine aminotransferase（ALT）の値を調査し、一般化推定方程式（GEE）を用いて対象薬剤が血液検査値に及ぼす効果を比較検討した。CAN/AML 群と OLM/AZ 群の平均投与期間はそれぞれ 263.1 日、265.6 日で両群に有意差はなかった。また、年齢、性別、投与前の既往歴や併用薬の患者背景も両群に有意な違いはなかった。薬剤投与前と投与後の検査値の比較では、CAN/AML 群と OLM/AZ 群の両群とも、血清クレアチニン値の有意な上昇と eGFR の有意な低下を認めた。また、CAN/AML 群では血清 BUN 値の有意な上昇を認めた。しかし、薬剤投与前後の検査値の差の比較では、調査したすべての血液検査項目において CAN/AML 群と OLM/AZ 群の間に有意差はなかった。我々の調査結果は CAN/AML 配合薬と OLM/AZ 配合薬が腎機能系検査値に同程度の好ましくない影響を及ぼす可能性を示唆していることから、これらの降圧薬配合薬を投与する場合には、定期的に血液検査を施行して腎機能を監視する必要があると考えられた。